



かし ほうにだいし 8 度目の加諡は『法爾大師』

800年遠忌に際し、法然上人に今上天皇から加諡された大師号です。

大師号	天皇	年	備考
圓光大師	東山天皇	1697年(元禄10)	
東漸大師	中御門天皇	1711年(宝永8)	500回忌
慧成大師	桃園天皇	1761年(宝暦11)	550回忌
弘覚大師	光格天皇	1811年(文化8)	600回忌
慈教大師	孝明天皇	1861年(万延2)	650回忌
明照大師	明治天皇	1911年(明治44)	700回忌
和順大師	昭和天皇	1961年(昭和36)	750回忌
法爾大師	今上天皇	2011年(平成23)	800回忌

大師号は、もともと中国で高德な僧に朝廷から勅賜の形で贈られた尊称です。帝王・相国などの貴人の死後に、『生前の行いへの評価に基づく』名号が与えられました。諡号(しごう)とか諡名(おくりな)といわれます。(昔の天皇の名前、〇〇天皇というのはすべて死後に贈られた諡で、生前は別の名前と呼ばれていました。)その僧侶版が大師号だと思っていただければいいでしょう。866年(貞観8年)7月、清和天皇より最澄に「伝教」、円仁に「慈覚」の大師号が初めて贈られました。他に僧侶に贈られる号としては、国師号、禅師号などがあります。

ほかに有名な諡名として、聖徳太子というのも諡名、役小角(えんのおずぬ・役行者)は光格天皇から「神変大菩薩」(じんべんだいぼさつ)という菩薩名をいただいています。

ちなみに他の大徳の大師号は、弘法大師 空海 真言宗 921年(延喜21) 醍醐天皇
 伝教大師 最澄 天台宗 866年(貞観8) 清和天皇
 見真大師 親鸞 浄土真宗 1876年(明治9) 明治天皇
 立正大師 日蓮 日蓮宗 1922年(大正11) 大正天皇

檀信徒各位

せ が き
大施餓鬼法要のご案内

聖名 酷暑三伏の候と相成りました。

皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

東北震災で亡くなられた方のご冥福を祈念します。

お盆の季節を迎えるに当たり、勤められてまいりました大施餓鬼法要を、今年も浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記のとおりつとめます。ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。 合掌

平成23年7月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

※期 日 7月15日(金) 午後1時よりご^{えこう}回向
午後2時より法話

※布教師 藤野 良海 師 (神崎市 浄圓寺御住職)

※ご回向料

^{とうばえこう}
特別塔婆回向 1霊 5,000円 以上

今年、初盆を迎えられるご先祖様

特に志される霊位

(塔婆を持ち帰ってお盆までお祀り下さい)

※事前にお申し込みが必要です。ファックスでも受付けます。
ファックス番号は0942-32-2701 7月10日までにご利用
します。

普通回向 1霊 1,000円 以上 志納下さい。

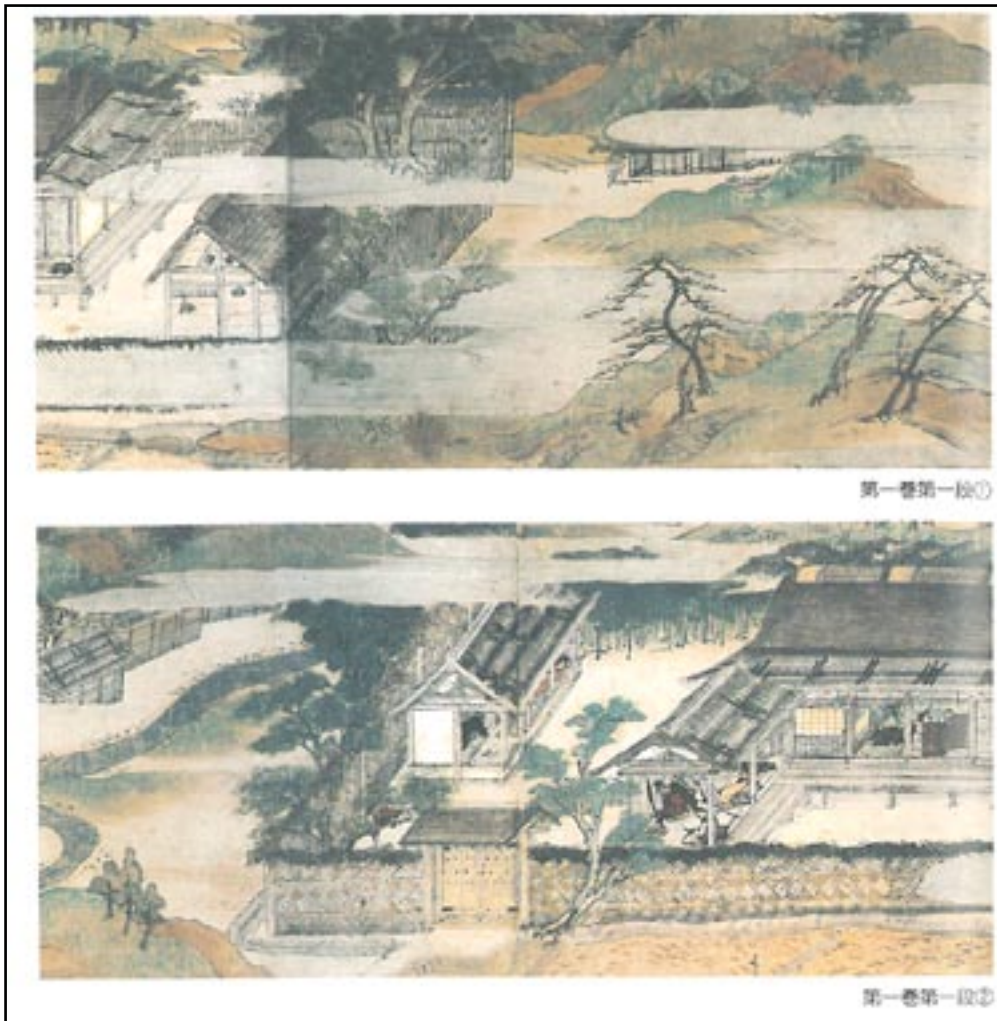
※お供え米、お供え米料 随意志納下さい。

ご本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

法然上人絵伝

第一巻第一段

漆間時国夫妻、仏神に祈って勢至丸を懐妊する



法然上人の父漆間時国は、美作国（岡山県）久米郡の押領使であった。押領使というのは、もともとは臨時の役職で、兵士を管理統括する役である。本来は戦争が起こったときに任命されるものであった。やがて国家の土地に置かれるようになり、盗みや狼藉をするものが出ると、それらを逮捕し、争いを鎮圧する役となった。だからかなりの権力がないとつとまらねい。そこで、大体は地方の豪族が任命された。こうした役に父時国が任命されたということは、久米郡内における有力者であったといっている。

法然上人の母は秦氏の出身という。時国夫妻には子供がなかった。そこで一生懸命に仏神に祈った。ことに天台宗本山寺の岩間観音に対する信仰は厚く、夫婦そろって参詣を続け、子宝に恵まれるよう祈りつづけたという。そしてある夜のこと、夫人が剃刀を呑む夢をみた。すると不思議なことに懐妊した。これを聞いた時国は喜びをかくしきれず、「きつと男の子が生まれるに違いない。そして有名な僧侶になるだろう」と予言した。

本山寺は山を二つ越し、直線にすれば十余キロ離れた柵原町にある。県道から二キロほど山手に入り、曲がりくねった道を進むと、山上近くに二王門がある。さらに城郭を想像させる石垣の上に長屋がある。寺侍のいた場所であるが、その門を入ると立派な唐門とお霊屋がある。

本山寺は役行者小角が修行した跡といわれ、大宝元年（七〇一年）佐伯有頼がこの山で新山寺を建てたが、その後、鑑真が来て本山寺と改めたという。平安時代になり一時荒廃したが、久米師真、弓削師古が復興につとめて隆盛になり、天永元年（一一一〇）この地に移転した。当時は百二十坊があったという。漆間時国夫妻が参詣したのはこのころである。

しょうろうだな お盆の精霊棚



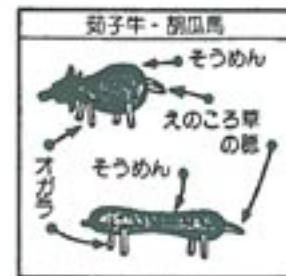
精霊棚はお盆の間、ご先祖様がおられるところです。毎日、家族の食事の前には供養をし、それから、食事を始めるようにしましょう。

地方によっては、この間の献立が厳格に決められているところもあります。

普通はそこまでしなくても、家族の食事の一部を供えたり、故人の好物を供えるということになるでしょう。



略式棚



ミソハギとは

ミソハギは高さ1m近くに成長する多年生草本。本州以南の沼地や田圃の周辺など、湿った明るい場所に生育する。全株無毛、茎は上部に至るほど四角形の断面となり、不明瞭な稜がある。葉は対生し、花弁は6枚。6月から8月のおわりにかけ、紅紫色の花を次々と付け、花期は長い。花弁はしわがよっている。よく似たエゾミソハギは毛があるので区別できる。



※精霊棚が普段の仏壇と違うのは、水の子（茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを蓮か里芋の葉に乗せる）と調伽水（どんぶりに入れた供養の水）、それに茄子の牛とキュウリの馬を用意することくらいでしょうか。

※お参りの仕方

お参りする人は、ミソハギの束の先をどんぶりの調伽水に浸け、水の子にふりかけてから（洒水）、拝むようにします。

ミソハギは他のもので代用できます。お盆に祭られる精霊棚（しょうりょうだな）は別名、盆棚、魂棚、先祖棚ともいい、お盆の間、ご先祖様が宿るところといわれています。

期間中の供養はここでを行います。仏壇とは別にするのが一般的なやり方です。

精霊棚は普通、10日から13日の朝までには作ります。

※新盆の家では、1日ごろから作ることもあります。

以上ごく一般的と思われることを説明しました。

無数の餓鬼に食物を施して
 供養した功德により、寿命
 を延ばすことのできた阿難
 の説話にもとづく行事です。
 阿難さまはお釈迦さまの十
 大弟子の一人で、お釈迦さ
 まからこの供養の方法を授
 けられたといわれています。
 今日では、お盆の前後に行
 われることが多く、先祖追
 福のために、また一切の生
 物の霊を慰め、あわせて自
 分自身の福德延寿を願う法
 要です。

施餓鬼会



筑後三十三箇所 聖観世音菩薩像

写真はイメージ 台座にお写経を納経します

14 日会 (念仏と写経の会)

- 1、日 時 毎月第 3 土曜日但し、8 月は休み
午後 3 時より勤行とお念仏
引き続き 写経会
- 2、場 所 無量寺 2 階 本堂にて
- 3、参加費 無 料

写経用紙(和紙)は準備しております。
 (実費をお願いします。)

用具は各自お好みのもの
 筆ペンを多少準備しております。

納経料 1 巻 1,000 円をご志納下さい。
 (納経料は積み立てて、
 観音様建立の資金といたします。)

初盆を迎えられるお宅へ

7 月 15 日の大施餓鬼法要では、今年初盆を迎えられる御霊の特別回向を行います。

志されるお宅の方は前もってお申し込み下さい。

当日、回向、焼香の後、塔婆をお渡ししますので、お家に持ち帰って頂き、初盆の精霊棚に祀ってお盆をお迎え下さい。

お盆が済みましたら、お寺へお持ち下さい。お寺で炊き上げます。(以前は精霊船に乗せて流したものです)

現在は 8 月 15 日の夕刻より水天宮下の筑後川で、流し灯籠をたくさん流されています。

特別塔婆回向を申し込まれる方は、準備の都合がありますので、事前にお申し込みいただきますようお願いいたします。7 月 10 日までをお願いします。
 お申し込みは郵送、ファックスでも結構です。FAX 0942-32-2701
 ご回向料は当日受付でお願いします。

※初盆のお参りは、はがきにて日時をお知らせします。
 久留米市外の方は、13 日より前になることもありますので、ご了承下さい。

おのづから 心ただしく なりにけり よきえにしにて 寺をめぐれば

筑後三十三観音霊場 十八番札所 無量寺のご詠歌

6月4日から6日まで、京都、大阪、兵庫、岡山の法然上人ゆかりの寺院を尋ねて、参拝旅行をしました。知恩院では歌を奉納したり、誕生寺などをお参りして大変有意義な旅でした。



法然上人霊場勝尾寺二階堂



歌奉納の後、総本山知恩院御影堂前で



小野市浄土寺 5.7mの阿弥陀様は圧巻でした



岡山誕生寺の六地藏



世界遺産宇治の平等院にも参詣

日常生活の中の仏教語

瓦(かわら)

日本家屋で特に屋根をふくのによく用いられる。粘土を一定の形に固めて焼いたものである。

これが、なんと梵語カパーラ(迦波羅)に由来するのだから驚きである。原語は皿、鉢、骸骨などの意味があり、舟の竜骨(キール)のことを「かわら」というのも、ここから来ている。

『平家物語』巻二に、「熊野まうで、天王寺詣などには、ふたつがはらの、三棟につくった舟にのり」とあるのがそれである。

日本には、百済国から初めて渡来し、寺院の屋根をふくの用にいられて以来、広く一般に普及したものとされている。

瓦は、昔から屋根ふき用にばかり使われたものではなく、瓦経とか瓦版などという熟語もある。瓦経は、祖先の冥福を祈り、自ら往生極楽を願って、瓦の両面にお経の一節を彫りつけ地中に埋めるもので、今のタイム・カプセルの先例が、平安朝末期には盛んに行われたようである。

瓦版は江戸時代の新聞に当たるもので、粘土にニュースや事件の文字・絵などを彫り、瓦のように焼いた原板を紙に印刷して売りさばいた。

なお、素焼きの皿を「かわらけ」というが、これも「瓦笥」という意味で、物(主として飯)を入れる器を瓦風に焼いたところから来ている。

もっと見る ←クリック

写真をクリックして下さい。ホームページにジャンプします。